

地域課題解決のための協働事業 井戸端会議からの提案を練り上げるにあたって 〔論点ペーパー〕

1. 協働井戸端会議の成果の活用方法について

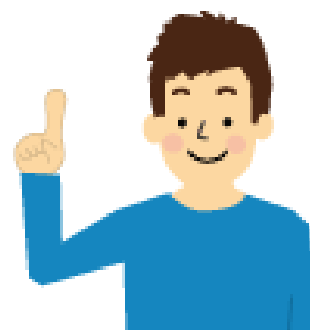
第2次計画書に協議結果を掲載します。

- ☞ 計画書の第4章「市民協働のための施策」の「基本方針5 協働の視点からの健幸まちづくりの推進」の「5-1 多様な協働を推進する」の部分に掲載を予定しています。
 - ☞ 「多様な協働」とは何かを紹介するわかりやすい提案（モデル）を掲載したいと考えています。
 - ☞ NPO×NPO、NPO×地域組織、地域組織×地域組織、NPO×民間事業者、地域組織×民間事業者などの行政以外の主体同士が協働する提案（モデル）を掲載したいと考えています。
- ※ 市と団体・事業者等の協働は別項で扱う予定。

2. 本日の協議にあたって

協働のかたちที่わかりやすい提案を。

- ☞ 前回までの話し合いをベースに話し合いを進めてください。全く一からの議論とならないようにしたいと思います。
- ☞ 協働の主体がわかりやすくなるように、焦点を絞りつつ、なるべく具体的な表現となるように努力してください。
- ☞ 前回（第4回）の提案を担当部局に見てもらい、コメントをもらっています。コメントにも対応してください。
- ☞ 本日、協議した結果はなるべく計画書に掲載していく方向で考えておりますので、わかりやすい資料となるように工夫を凝らしてください。



①健康『協働でつくりあげる、ウォーキングイベントの開催』

1. 前回の提案に対する関係部署からのコメントのポイント

- 市では、すでに、井戸端会議から提案のあった事業を「歩けランニング運動指導員連絡協議会」と協働実施しています。
 - ⇒市内13会場で、コースを設定した「歩け運動」を実施しています。地域のコースマップなどを作成して、各地区公民館にも配布し啓発に努めています。
 - ⇒年間6回程度、地区公民館をスタートにした「ウォーキングイベント」も開催しています。地元を中心に100名程度の参加があります。今年度より新たに2回イベントを増やして実施しています。
 - ⇒ご指摘のとおりまだまだ周知されていないことが課題です。新規の事業を増やすより、既存の事業や地域での活動のPR支援を進めていきたいと考えています。
 - ⇒次年度、市内の行事やコースを網羅した新しいマップ作成を検討しています。
- 「健康の道」ウォーキングでは、地元の方とコース設定の相談をして、イベント協力をいただいている実績があります。
 - ⇒行政の役割で、場所の提供・資金の提供・特典（ゲスト、プレゼント）については、予算が確保できれば実施可能かと思えます。
- ウォーキングに参加してほしいターゲットはどのような世代ですか。
 - ⇒中高年をターゲットにしたものは、数多くあるように思います。普段ウォーキングイベントに参加されることの少ない勤労世代や子育て世代をターゲット及び協働団体として考えるのであれば新たな提案になっていくと思います。

2. より良い・より現実的な協働提案としていくための基本的な「論点」

- 市では、すでに提案のあった事業と類似の事業を、市民団体（協議会）とともにやっているということですので、これらとの違いを打ち出したいと思えます。
 - ⇒いただいたコメントにあるように、対象者（ターゲット）を代えるのも一つの作戦。
- 今回の協働提案の意図・目的は『多様な協働』の姿を提示することにあります。協働の主体（どこどこが協働するのか）の部分について再検討していただきたい。
 - ①今の提案は、「市」と「市民（市民団体）」の協働というかたちとなっています。安城市は実行委員会を支援する立場として位置づけて再考してみてください。
 - ②「市民（市民団体）」と「市民（市民団体）」あるいは「市民（市民団体）」と「民間事業者」といった協働のかたちとなるような提案がいただきたい。
- 事業目的から、①と②の協働のかたちを考えてみました（実行委員会の構成メンバーは変わりませんが）。①または②のどれに絞るか。あるいはさらに異なる協働のかたちを検討するかをまずはじめに協議してみてください。
 - ①地域が継続的な健康づくりの一環として実施する。
地域団体（町内会、スポーツクラブ等）×市民団体・NPO
 - ②市民団体がウォーキングの普及を主目的に実施する。
市民団体（ウォーキングする団体）×地域団体、企業、小中学校など

3. 本日の協議のポイント（Q&A方式で）

Q1 上記の提案①～②のうちどちらを軸に仕上げたいとお考えでしょうか。あるいは①、②とは異なる協働のかたちを検討しますか。

- ①地域として、住民が継続的に健康づくり（＝ウォーキング）に取り組んでいくための事業として位置づけ普及を図る。（＝地域の健康づくりが主目的） →①-Q2へ
- ②「ウォーキングの普及」をテーマに、市民団体（NPO等）がウォーキングイベントにて参加者のさらなる拡大を目指す。（＝市民へのウォーキング普及が主目的） →②-Q2へ
- ③上記①、②以外のケースを検討する →③-Q2へ

①-Q2 ①の場合の協働のかたちとしては、以下のような形が想定されますが、協働することによる双方のメリット（それぞれの主体が抱える課題の解決に結びつくか）を確認してみてください。

<p>A. 協働の主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域団体 (例えば)・町内会、地縁型の運動クラブ など 	×	<p>B. 協働の主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域団体（老人会、子ども会など） ・市民団体（歩け歩け運動関係者） ・民間企業・事業所 ・小中学校 など
---	---	---

協働メリットは？



②-Q2 ②の場合の協働のかたちとしては、以下のような形が想定されますが、協働することによる双方のメリット（それぞれの主体が抱える課題の解決に結びつくか）を確認してみてください。

<p>A. 協働の主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民団体 (例えば) 歩けランニング運動指導員連絡協議会、歩け歩け運動関係者 など 	×	<p>B. 協働の主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域団体 (町内会、老人会、子ども会など) ・民間企業・事業所 ・小中学校 など
---	---	--

協働メリットは？



③-Q2へ ①、②以外のかたちを想定した場合、協働のかたちはどのようなものが想定されますか。それぞれの主体を考えてみてください。また、協働することによる双方のメリット（それぞれの主体が抱える課題の解決に結びつくか）を確認してみてください。

A. 協働の主体	×	B. 協働の主体
-----------------	---	-----------------

協働メリットは？

--	--

Q3 対象者（ターゲット）は明確にできそうですか。

1. 明確にできる	⇒ 【Q4にお進みください。】
2. 明確にできない	⇒ 【Q1に戻ってください。】

Q4 既存のワーキングイベントとの違い（あるいは改良点）を説明できそうですか。

1. 説明できる	⇒ 【ワークシートにお進みください。】
2. 説明できない	⇒ 【Q1に戻ってください。】

Q5 ワークシートに沿って、内容を詰めてください。

②環境『あんくるバス・タクシーを使ったツアーをやろう』

1. 前回の提案に対する関係部署からのコメントのポイント

- 運営事業者との協議が整えば実施可能であると思います。
- あんくるバス、あんくるタクシー（特にあんくるタクシーは一般タクシー車両を使用している）ともに公共交通であるため、当日の乗車状況により、一度に乗車できない可能性もあります。
- あんくるタクシーは、バス路線を補完する（＝公共交通によるサービスを受けられない地域の移動手段を確保する）交通手段との位置づけで、そもそも利用実績は大きなものではありません。
⇒市内3ヶ所で運行。（里地区、高棚・箕輪地区、小川地区の3ヶ所）
⇒もともとは2012年11月～2013年10月までの実証実験運行としてスタートした事業。
《参考》 あんくるタクシー利用実績（H24.11～H27.12） 日平均（累計）
里地区=0.5人、高棚・箕輪地区0.7人、小川地区1.2人 3地区平均=0.8人

2. より良い・より現実的な協働提案としていくための基本的な「論点」

- 今回の協働提案の意図・目的は『多様な協働』の姿を提示することにあります。協働の主体（どこどこが協働するのか）の部分について再検討していただきたい。
 - ①あんくるバス・タクシーは安城市が運行主体となります。そのため、今の提案は、「市」と「市民（市民団体）」の協働というかたちとなっています。
 - ②なるべく、「市民（市民団体）」と「市民（市民団体）」あるいは「市民（市民団体）」と「民間事業者」といった協働のかたちとなるような提案がいただきたい。
- ツアーの目的に「あんくるタクシーの利用促進」があげられていますが、むしろ公共交通の利用促進を主たる目的として再考いただけないかと考えています。
 - ①あんくるタクシーの利用促進は確かに必要（課題）ではあるものの、そもそも公共交通を補完する手段なので利用の絶対数はきわめて少数でしかなく、実績が飛躍的に大きくなるものとは考えにくい。（飛躍的に大きくなることは市としても期待していない。）
 - ②むしろ公共交通（あんくるバス）の利用促進を考える方が事業目的としてはふさわしいのではないかと。（一つの改善策として）
 - ③「環境」というテーマからすると『地球温暖化防止（CO₂の排出抑制）』の視点から、公共交通を考える意味づけを目的に加えてみてはどうか。

3. 本日の協議のポイント (Q&A方式で)

- ★ 提案の改善策として、「原風景見学ツアーを実施している市民団体(具体的イメージはグリーンそう)」と「エコなライフスタイルを提唱している市民団体(具体的なイメージはエコネット暮らし部会)」の協働のかたちを事務局から一例として提示させていただきます。

Q1 「論点」で示したように、「市民(市民団体)」と「市民(市民団体)」あるいは「市民(市民団体)」と「民間事業者」といった協働のかたちが、これまでの話し合いの中から他にも考えられるかどうかご協議ください。

①事務局からの改善策をベースに提案を詰めることとする →①-Q2へ

②事務局の改善策とは別に、「協働のかたち」を検討することとする →②-Q2へ

①-Q2 ①「グリーンそう」と「エコネット暮らし部会」(ふさわしい団体があるのであれば別でもかまわない)が協働する姿をイメージしたとき、協働することによる双方のメリット(それぞれの主体が抱える課題の解決に結びつくか)を確認してみてください。

A. 協働の主体

- ・市民団体
(例えば) 原風景見学ツアーを実施している市民団体(グリーンそうをイメージして)

×

B. 協働の主体

- ・市民団体
(例えば) ・エコなライフスタイルを提唱している市民団体(エコネット暮らし部会をイメージして)

協働メリットは?



Q3 双方のメリットは確認できましたか。



1. 確認できた ⇒ 【ワークシートにお進みください。】

2. 確認できなかった ⇒ 【Q1に戻ってください。】

②-Q2 ②事務局からの改善策以外で協働のかたちを考えたとき、協働の主体A, Bにはどのような団体・事業者がふさわしいですか？ その際、それぞれの主体（団体・事業者）が協働することによる双方のメリット（それぞれの主体が抱える課題の解決に結びつくか）を確認してみてください。

A. 協働の主体 ・	×	B. 協働の主体 ・
----------------------	---	----------------------

協働メリットは？

②-Q3 Q2で考えた事項は、協働のかたち（協働提案）に仕立て上げられそうですか。

1. 仕立て上げられそう ⇒ **【ワークシートにお進みください。】**
2. 仕立て上げられそうもない ⇒ **【Q1に戻ってください。】**

Q4 ワークシートに沿って、内容を詰めてください。

③経済『安城市にお金が落ちる仕掛けづくり ～デンパークを核として～』

1. 前回の提案に対する関係部署からのコメントのポイント

- デンパークは、指定管理者（公益財団法人安城都市農業振興協会）に管理運営を委託しています。
 - ⇒市と交わしている基本協定書の内容等によっては、協働のパートナーとなって実施することが困難な事項もあります。
 - ⇒大勢の方に入園していただくために、デンパークの魅力を高める取り組み（仕掛け）は必要だと考えます。
 - ⇒地元農産物の販売は、デンパークの同一敷地内にある「道の駅デンパーク」で行われています。また、収穫体験や農業体験については、デンパークでは過去に市民農園などを実施していましたが、現在は、市のアグリライフ支援センターで初心者向けの野菜づくり講座やスポット講座を実施しています。
 - ⇒「ビールオーナー制度」は、テナント契約している地ビール工房（地ビール&地産地消レストラン安城デンビール「ホレ・フェスト」）を想定しての提案だと思いますが、実施目的や実現性に疑問があります。
- （アンフォーレを会場とした取組をするのであれば）アンフォーレで開催するイベントと関連付けたイベントを商店街側が主体になって開催するというスタイル。
 - ⇒そのための情報提供、アドバイス、協力をアンフォーレの指定管理者が行うということは考えられます。
 - ⇒その場合、（指定管理の）仕様書では『連携』することを規定しているので、協議が必要。

2. より良い・より現実的な協働提案としていくための基本的な「論点」

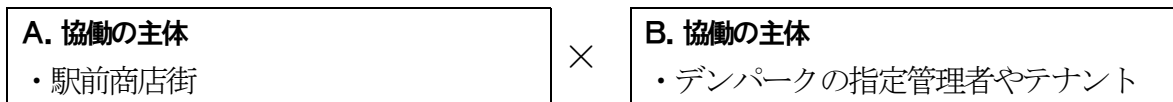
- 今回の協働提案の意図・目的は、解決したい地域課題の中でどれなのかを絞らないと、“あれもこれも”だと、提案内容や協働相手がまよけてしまいます。
- 下記の提案①～③の提案のどれに絞るか。あるいは、それぞれについて協働あり方を考えるかを再検討することが大切であると思われます。
 - ①七夕飾り作り体験
 - ②農業体験
 - ③ビールオーナー制度

3. 本日の協議のポイント（Q&A方式で）

Q1 上記の提案①～②のうちどれを協働のかたちとして仕上げていきたいとお考えでしょうか。つまり、以下の①～③のうち、どのテーマに絞りたいですか。

- ①七夕祭りの集客アップとデンパークの集客アップを解決すべき課題として焦点をあてたい（＝七夕祭りやデンパークの集客アップを図ることが課題） →①-Q2へ
- ②安城農産物の土産化（地産地消）を進めたい（＝土産化や地産地消が農業の活性化には必要） →②-Q2へ
- ③デンパーク（地ビール工房）集客アップを課題として焦点をあてたい（＝地ビール工房の客足が落ちているから、客足落ちていないにしても増やすことが必要） →③-Q2へ

①-Q2 ①七夕祭りの集客アップとデンパークの集客アップのための協働のかたちとしては、以下のようになると考えられますが、協働することによる双方のメリット（それぞれの主体が抱える課題の解決に結びつくか）を確認してみてください。



協働メリットは？

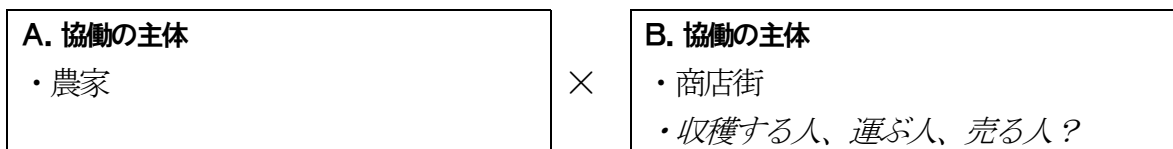
↓

↓

①-Q3 双方のメリットは確認できましたか。

1. 確認できた ⇒ 【ワークシートにお進みください。】
2. 確認できなかった ⇒ 【Q1に戻ってください。】

②-Q2 ②安城農産物の土産化（地産地消）を進めるための協働のかたちとしては、以下のようになると考えられますが、協働することによる双方のメリット（それぞれの主体が抱える課題の解決に結びつくか）を確認してみてください。



協働メリットは？

↓

↓

②-Q3 安城市には、JA 産直市が市内で6か所（ファーマーズマーケットでんまーと安城北部、産直センター安城東部、ファーマーズマーケットでんまーと安城西部、産直センター「道の駅」デンプーク安城、産直センター安城南部、産直センター安城桜井）が開催されています。また、「安城まちなかきーぼー市場（旧産直市）」も（愛知県農村生活アドバイザー協会西三河支部安城地区との協働で）毎月開催されています。これらに加えて、農産物を通じたどのような協働によって産業・経済の活性化を行っていくことが考えられますか。

②-Q4 ②-Q2、Q3で考えた事項は、協働のかたち（協働提案）に仕立て上げられそうですか。

1. 仕立て上げられそう ⇒ **【ワークシートにお進みください。】**
 2. 仕立て上げられそうもない ⇒ **【Q1に戻ってください。】**

③-Q2 ③デンパーク（地ビール工房）集客アップのための協働の一つの主体は、「デンパークのテナント（安城デンビール）」であると考えられますが、もう一方の主体はどこになると考えられますか。また、かたちとしては、協働することによる双方のメリット（それぞれの主体が抱える課題の解決に結びつくか）を確認してみてください。

<p>A. 協働の主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デンパークのテナント（安城デンビール） 	×	<p>B. 協働の主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地ビール好きの市民団体？ デンパークを盛り立てるサポートをしている市民団体？ <p style="text-align: center;">↓具体的には??</p>
---	---	---

協働メリットは？

③-Q3 もう一方の協働の主体は例示できそうですか。双方のメリットは確認できましたか。

1. 例示できそう、確認できた ⇒ **【ワークシートにお進みください。】**
 2. 例示できそうにもない、確認できなかった ⇒ **【Q1に戻ってください。】**

④きずな 『町内会組織への女性の登用に向けた取組』

1. 前回の提案に対する関係部署からのコメントのポイント

- まずは、ある町内会をモデルとして試行的に取組み、その効果を検証した後に、徐々に他の町内会へも働きかけていくということであれば、協力できるかと思います。
⇒町内会における女性登用は働きかけることは大切ですが、そのためだけに町内会に新たな負担をかけることはできないと思っています。したがって、実施するにあたっては、町内会との関わり方について、十分に協議した上で進める必要があると思います。
- 市では、毎年開催している自主防災リーダー養成研修や自主防災組織支援事業（複数の自主防災組織が参加して行う避難所に関するワークショップや避難所開設・運営等の訓練）において、女性の役割の重要性を説明し参加を呼びかけているが、役員や研修等の参加者は男性が圧倒的に多いのが現状です。
⇒講座等の実施にあたり、どの世代を対象にするか（子育て中 or 子育て後の世代などによって参加しやすい曜日・時間帯が変わってくると思われます。）や、実施内容についてはもう少し詳細な検討が必要。
⇒避難所運営などの場面で女性の役割は大変重要であると考えていますが、女性登用のためには自主防災会（町内会）の理解と協力が不可欠です。

2. より良い・より現実的な協働提案としていくための基本的な「論点」

- やることは明確ですが、講演会等を行った次にどのようなことを行えば町内会組織における女性の登用につながるか、次の展開があまり見えないという指摘もありますので、次の展開のイメージをご検討ください。
- 上記のコメントを踏まえ、誰を対象にするのか、どのように集めるのか（集め方や参加対象者が参加してみたいくなるような内容・工夫など）について検討してみたいかがでしょうか。
- 男女共同参画も大事ですが、【きずな】の分野では、「11. 防災・減災」や「12. 地域福祉」などが大きな地域課題であると思われます。時間があれば、これらの地域課題についても「多様な協働のかたち」を考えてみたいかがでしょうか。

例えば・・・

* 団塊の世代が後期高齢者になる「2025 問題」への対応（地域包括ケアシステムの構築）

* 「老老介護世帯」や「認認介護世帯」、生涯未婚者の増加に伴う「身寄りのない中高年者（65歳以上）」、「ニートや引きこもり者」、「8050 問題やパラサイト破産・老後破産の問題を抱える世帯」、増加傾向にある「発達障害児」や「大人の発達障害」、「子どもの貧困問題」など、制度の狭間におかれてしまいそうな人や世帯への対応 など

3. 本日の協議のポイント

Point1 ワークシートに、『④取組の内容（●講演会等の開催後、どのように発展させていくのか、●ターゲットと集め方や参加してみたいくなるような工夫）』の欄を設けました。検討を加えてみてください。

Point2 その上で、必要に応じてから、『②背景・目的』を見直してみてください。

⑤こども『子どもたちの本音をしっかりと聴いてみよう!』

1. 前回の提案に対する関係部署からのコメントのポイント

- 子どもたちの抱える問題という点が幅広く、どんなことを受け止め、支援するかがはっきりしません。
- 教職員・地域の方が子どもたちとかかわる部分は多種多様にあることから、子どもたちの悩みを聞くこともあれば、友達からの心配の声などを聞いて子どもと問題解決にあたりはしています。
- この取組みには、子どもたちに限らず、人の本音を聞き出す能力と、それを他の人にわかるよう伝えることができる能力を持った人物が必要かと思いました。
⇒例えば、子ども会役員に子どもたちの本心を引き出す役割を担わせたりするのは難しいように思います。

2. より良い・より現実的な協働提案としていくための基本的な「論点」

- 提案いただいた内容を読んだ方からは、「子どもの本音を聞いて、それをどうしたいのかが分からない」という意見を複数の方からいただきました。その点を加筆すると、なぜ子どもの本音を聞く必要があるのかが説明できるのではないかと思います。
- 子どもたちの本心を聞き出す能力、ノウハウをどのように確保するかについても、検討を加えてみてください。

3. 本日の協議のポイント

Point1 ワークシートに、『④取組の内容（子どもたちの本音を聴いたあと、どのようなことに生かしていくのか）』の欄を設けました。検討を加えてみてください。

- ①前回までの話し合いの過程を振り返りつつ、子どもたちの本音を聞いた後、その意見をどのように生かしていきたいのか、検討を加えてください。
- ②具体例をあげて説明できるとわかりやすくなるかもしれません。

Point2 上記で、④取組の内容（子どもたちの本音を聴いたあと、どのようなことに生かしていくのか）を協議した結果から、『②背景・目的』を見直してみてください。

Point3 その他

- ・子どもたち 対象となる子どもたちの年齢層は？